（別紙４）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達LABO.Proリハ（保育所等訪問支援）			
○保護者評価実施期間	2026年　2月　14日		～	2026年　3月　16日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	10	（回答者数）	8
○従業者評価実施期間	2026年　2月　14日		～	2026年　3月　16日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）		（回答者数）	
○訪問先施設評価実施期間	2026年　2月　14日		～	2026年　3月　16日
○訪問先施設評価有効回答数	（対象数）		（回答数）	
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　3月　19日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育や小集団療育で把握した特性や客観的なスクリーニングの指標をもって日々の園生活の様子を確認できるところ。	園で成長している事や課題となっている点を園の先生と共有し、療育で取り入れることで日々の園生活に繋げられる支援を意識的に行っている。	園での成功例を訪問支援員が情報共有し、療育でも活用できるように支援を循環させる仕組みをつくる。
2	直接支援において、理学療法士と作業療法士といった専門職が訪問する事で直接支援するポイントを園の先生に伝えることができる。	専門職が訪問する為、専門用語には気を付けて園の先生が支援をする上でのポイントを伝える。園での取り組みを専門職の視点から保護者にフィードバックをして行くこと。	通常生活場面だけではなく、園行事などでも積極的に直接支援に入れるようにする。
3	情報共有の場で質問や疑問についてその場で答えることができる。	対象児童の特性だけでなく、療育としての知識を深め、本人に合った方法と一般的な方法を伝える。そのうえで園で取り組める活動を一緒に考えて提案する点。	療育だけの視点ではなく、集団活動について保護者からの視点と園や学校からの視点を両方持ち、双方の意見や取組の懸け橋となれるように知識を深める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者のニーズと園や学校のニーズが違う際に訪問自体が困難なケースがあり、訪問支援自体ができない場合がある。	学校や園が保育所等訪問支援のサービス内容を知らないことが多く、送迎との勘違いなどがまだある状況のため、支援の目的等をしっかり説明する必要がある。	保育所等訪問支援についての事業説明をサービス担当者会議などでしっかり伝える。
2	当法人の児童発達支援・放課後等デイサービスを利用されず保育所等訪問支援のみの利用者の場合、本人や家族のアセスメントが中心になりスクリーニングに時間をかけにくく、訪問先での課題や困り感を療育を通してリアルタイムで改善するには難しい。	本人や家族が頻回に来所していただく機会がとりにくい。 他の療育事業所等との連携も書面や口頭での伝達になる。 訪問先で取り組むにしても訪問先の事情などもあるため即効性のある改善策が取り組みにくい。	本人や家族が来所した際にアセスメントについて細かく設定し短い時間で特性把握ができるように努める。
3	療育に通う事で集団生活の製作課題や行事などの練習といったクラス全体が同じスピードで進むことに取組にくさがある。	平日の午前中が小集団療育になるため、園を休む機会になり訪問先で毎回違う反応がみられている。	行事などの練習時期の療育の調整や園との連携で様子を細かく確認し、スケジュールの調整を図っていく。